

公立松任石川 中央病院だより

創立60周年
特別号

平成21年1月

ぬくもりとおもいやりの医療を

創立60周年を機に、地域医療の一層の充実を



野々市町の花木 ツバキ



白山市の花 あまがさ



川北町の花 カワラナデシコ



白山石川医療企業団

公立松任石川中央病院



高度医療の
取り組み

高度医療の
取り組み
安全・安心の
生活をサポート



PET/CT
全国の前線体積線に先駆けて導入
【セントラルメディカル(株) /
GE医用デバイスシステム】

64chマルチスライスCT
心臓疾患の診断・治療に大きな効果
【(株)コムラ/フィリップス】



**心臓血管造影X線
診断装置**
カラーテレビ検査、手動撮影機は
北陸はもとより全国でも
トップクラス(3台設置)
【(株)コムラ/フィリップス】



内視鏡システム
上部、下部を合わせて年間12,000件で
県内トップクラス
【日本顕微鏡(株) / オリンパス】



白山石川医療企業団

公立松任石川中央病院

〒964-8688 石川県白山市倉光三丁目4番地
TEL. 079-278-2222(代番) FAX. 079-274-6974
URL: <http://www.metshp.jp/> E-mail: metshp@necg.hokkai.ne.jp

病院創立60周年記念事業報告



さらなる発展に期待します ―病院開設者からのメッセージ―



石川市長
加藤 良二氏

〇創立60周年の歴史を振り返る
60周年を迎えられたことは、地域住民の方々のご理解とご協力があったからこそです。この60年を振り返ると、市民の皆様がご協力して下さったことが、開設者の一人として非常に誇りに思っています。

開設は、地域住民の方々の健康を第一と志し、地域に根ざして活動していくことを目指してまいりました。これほど地域に根ざし、地域の医療ニーズを的確に把握し、市民の健康を第一と志して活動してきたことは、開設者の一人として非常に誇りに思っています。



理事長
加藤 雅彦氏

〇市民生活と健康の向上
60周年を迎えられたことは、心から感謝申し上げます。男の子は百歳より、住みやすくて健康な暮らしを目指してまいります。その一環として、市民生活の向上、健康増進の一人として、心から感謝申し上げます。

〇町民生活と健康の向上
60周年を迎えられたことは、心から感謝申し上げます。健康増進の一人として、心から感謝申し上げます。



理事長
加藤 雅彦氏

〇町民生活と健康の向上
60周年を迎えられたことは、心から感謝申し上げます。健康増進の一人として、心から感謝申し上げます。



〇記念講演
全国自治体病院協議会会長 加藤良二氏
「生命(いのち)を守り、石川の健康を
「安全で快適な医療を求めて」
「一人ひとりの命を大切に」

平成20年11月16日、白山市の新任文化会館において、公立松任石川中央病院創立60周年記念事業が開催されました。雨天にもかかわらず、千人あまりの方にご来場いただきました。誠にありがとうございます。

第一夜は午後1時30分より、1階ロビーにおいて、健康講座「心と体」を開催し、血圧、体温測定、メタボリックシンドロームチェック、骨密度測定及び健康相談、AED体験学習を行いました。

第二夜は午後7時30分より、大ホールにて大ホール記念講演会が開催され、講演者は、全国自治体病院協議会会長の加藤良二氏をお招きし、医療の進歩と

〇健康フェア
（東大ホール）と
スタッフ（写真左）

〇山村復興会制作の
ブロンズ像「大馬に」が、
公立松任石川中央病院開院60周年
記念品として



〇アトラクション：甲斐善治や丘崎直の音楽による大正時代の演奏と新任理事長加藤雅彦による合唱

新春特別座談会

「地域医療のあり方について」

「地域完結型の医療提供体制の構築」

公立後任石川中央病院は昨年、創立60周年を迎えました。また、白山市、野々市町、川北町の3市町の国産産や、関係機関各社の「理解をいいたさき、自主性と自己責任を目的に導いて」白山市石川医療企業団」として、新たなスタートを切りました。そこで、その企業団と、地域の医療連携推進の代表の方だ、今後の地域医療のあり方について聞いてみました。



写真左から 宮本、八木、青田、青野、渡辺、大野、木下 (前列)



取材者：新本 有美さん (フリーアナウンサー)

石川石川医療企業団
 会長 青野 渡二
 副会長 大野 正
 常務理事 大野 正
 専務理事 大野 正
 監事 大野 正
 監事 大野 正

石川石川医療企業団
 会長 青野 渡二
 副会長 大野 正
 常務理事 大野 正
 専務理事 大野 正
 監事 大野 正
 監事 大野 正

新本 昨年4月から運営推進がまわってきたのでしょうか。
青野 地方公営企業法の全面適用により、「白山市石川医療企業団」として新たなスタートを踏み出しました。公立後任石川中央病院、公立つるぎ病院、吉野谷診療所、中吉野診療所、白峰診療所から構成され、地域住民のニーズに合わせた、幅広い医療サービスの提供を心がけています。
新本 運営推進の進展は、どういったところにあるのでしょうか。
青野 今、全国の公立病院では、経営面により統合が進み込まれるケースが増えています。その状況を状況下、より強固な経営体制の確立が急務となっており、複数の医療機関の共同体制としての連携力を活かした、新しい公設民営のスタイルを構築しようとしています。



青野 渡二 氏
 石川石川医療企業団 会長

八木 また、地域完結型の医療を目指しているところも挙げられます。地元住民の方々や、わざわざ遠方まで足を運ばずに済むように、住み慣れた街で医療サービスを受けられる体制を構築したかったのです。
青野 なるほど。経営推進を安定させるべく、地域の方々の利便性を追求された結果なのですね。
新本 それぞれの医療機関としては、どのような取り組みをされているのか。

八木 公立後任石川中央病院は、白山市、川北町の両市町の地域完結型医療体制を推進しています。24時間365日の救急医療をはじめ、高度医療を提供できる医療体制を取り直し、地域住民の方々が安心して生活するために充分な医療体制を整えています。
久保田 一方で、心臓や末梢血管の方々に治療や手術を提供するには、国はもとより全国でも有数の病院とみなして対応しています。患者さんの数の増加に伴い、施設設備の面で血管造影装置や手術室をも増やして対応するなど、万全の受け入れ態勢を整備しています。



久保田 一方で、心臓や末梢血管の方々に治療や手術を提供するには、国はもとより全国でも有数の病院とみなして対応しています。患者さんの数の増加に伴い、施設設備の面で血管造影装置や手術室をも増やして対応するなど、万全の受け入れ態勢を整備しています。

宮本 一方、心臓や末梢血管の方々に治療や手術を提供するには、国はもとより全国でも有数の病院とみなして対応しています。患者さんの数の増加に伴い、施設設備の面で血管造影装置や手術室をも増やして対応するなど、万全の受け入れ態勢を整備しています。

木下 これらの取り組みに加え、心臓や末梢血管の方々に治療や手術を提供するには、国はもとより全国でも有数の病院とみなして対応しています。患者さんの数の増加に伴い、施設設備の面で血管造影装置や手術室をも増やして対応するなど、万全の受け入れ態勢を整備しています。

新本 地域完結型の医療体制を構築する意味でも、心臓や末梢血管のリハビリテーション治療や、ハイパーリハビリを中心としたリハビリの推進も考えています。
青野 当企業団の取り組みが、地域の医療のモデルケースとなるよう推進の努力を惜しみません。そのことで、地域住民の方々と連携し、国産産や関係機関各社の「理解をいいたさき、自主性と自己責任を目的に導いて」白山市石川医療企業団」として、新たなスタートを切りました。

宮本 今後の方向性についてお聞かせ下さい。
八木 P&Iセンターがある施設性を活かして、さらには、高度医療に当たっては、施設設備の整備を行い、中心施設機能を担ってまいります。また、P&Iセンターを軸に、地域医療の発展にも力を注いでまいります。



